世界の国旗プリントシリーズ

アフリカ地域の国旗クイズプリント【由来→国名】

解 答

つぎの国旗の由来を読んで、 国名を答えてみましょう。

1920年代に反フランス運動の指導者となったメッサリ・ハジが作り、民族解放戦線の旗として掲げられた旗を、独立を機に国旗にした。この地域では、新月と星は幸運の象徴といわれている。

アルジェリア民主人民共和国

アンゴラ開放人民運動（MPLA）のときに使われた旗に、農民を表した農耕用ナイフと、工場で働く人々を表した歯車をつけ加えてデザインした。星は、アンゴラ共和国がMPLAの指導下になっていることを示している。

アンゴラ共和国

もともとはウガンダ人民会議の党旗に由来したもので、黒・黄・赤の3色のストライプで構成されている。国旗の真ん中には国鳥のカンムリヅルをあしらい、黒はアフリカ人を表し、黄色はアフリカの夜明けの太陽を、赤は民族の融和と同胞愛を表している。

ウガンダ共和国

上段の赤は革命を、中央の白は輝かしい未来を、下段の黒は過去の暗黒の時代を象徴している。真ん中に配置されているのは「サラディンのタカ」と呼ばれる国章である。王政時代には、緑地に白い新月と3つの星がデザインされた国旗だった。

エジプト・アラブ共和国

上段から緑・黄・赤の配色になっていて、古来からエチオピアで使用されてきたなじみ深い色である。アフリカ諸国の独立の際に、国旗の見本となったので汎アフリカ色と呼ばれている。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。

エチオピア連邦民主共和国

3色の三角形で構成されていて、緑色は農業を表し、赤は独立のために流された血を表現。青は豊富な海洋資源を、中央に描かれた黄色のオリーブの枝は鉱物資源に由来している。1995年、オリーブのデザインを少し変更した。

エリトリア国

上段から赤・黄・緑の「汎アフリカ色」。独立にあたってアフリカ最古の独立国であるエチオピアの国旗にちなんでいる。黄色を白に変更した時期がある。中央の黒い星は、アフリカの独立運動の父といわれるガーナの初代大統領を表現していて、自由への道しるべの意味が込められている。

ガーナ共和国

青は空と海を表し、白は平和、赤は国民の努力を表している。紅白の帯はこの国が作られるまでの道のりを示していて、黄色の10の星はカーボヴェルデ諸島の主な島の数である。独立したときには、もともと連合する予定だったギニアビサウの国旗と似通ったデザインだった。

カーボヴェルデ共和国

上段の緑は経済を支えている豊かな森林を表し、中段の黄色はガボンを横切っている赤道と太陽を表現。下段の青は、水資源と南大西洋を象徴している。自治国だったときには、旗竿にフランス国旗をつけた旗を使用していた。

ガボン共和国

左から緑・赤・黄の汎アフリカ色で構成される。独立後何回か変更されているが、汎アフリカ色は同じである。緑は国の南部にある豊かな森林地帯を表し、黄色は輝く太陽と北部のサバンナを、赤は南北の団結と耕作地帯を表し、星は栄光のシンボルとなっている。

カメルーン共和国

上段の赤は太陽を表し、中段の青は国の中心を流れているガンビア川を、下段の緑は豊かな農業資源を表している。境目の白のラインは、団結と平和の象徴。大統領の旗は、青地に国章が描かれたもので、旗の周囲が黄色く縁取りされている。

ガンビア・イスラム共和国

汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑の配色で構成。色の意味はアフリカ諸国によって違いがあり、この国では赤は労働と献身、黄色は正義と黄金、緑は団結と農業のシンボルとなっている。

ギニア共和国

汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑で構成される。ギニア・カーボベルデ・アフリカ人独立党（PAIGC）の旗にもとづいて考案された。黄色は北部のサバンナを表し、緑は南部の森林地帯を表現。赤は海岸地帯を表し、黒星は独立アフリカ党のシンボルである。

ギニアビサウ共和国

黒はケニア共和国の国民を表し、赤は独立で流された血を、緑は農業と肥沃な大地を表す。白線は平和と国民の統一を表現し、真ん中の紋章はマサイ族の盾と槍で、自由と独立のシンボルとなっている。

ケニア共和国

旧宗主国であったフランスの影響を受けていて、3本の帯は国の標語である「団結・規律・労働」に対応。左側のオレンジは北部サバンナの繁栄を表し、緑は南部の森林地帯と未来への希望を表現。白は北部と南部の統一と団結を表している。

コートジボワール共和国

独立してから5回国旗が変わっているが、いずれも新月と4つの星がデザインされている。黄色は太陽と進歩を表し、白は自由と純潔を、赤は独立のために流された血を、青はインド洋を表している。また、黄はムワリ、白はマイヨット（フランス領）、赤はグランドコモロ、青はヌズワニの各島を表現しているともいわれる。

コモロ連合

コンゴ人民共和国からコンゴ共和国に国名が戻ったのをきっかけに、1958年から1970年まで使用された緑・黄・赤の汎アフリカ色の国旗に戻された。緑は農業と未来への希望、黄色は誠実さと友愛、赤は熱意を表現。1991年までの人民共和国時代にはハンマーとクワをデザインした赤旗だった。

コンゴ共和国

独立してから6回目の国旗で、1963年から1971年当時の国旗に戻して青の色調を明るく変更。青は平和を表し、赤は独立のために流された尊い血を、黄色は豊かな国を表現している。黄色の星は輝かしい未来のシンボルとなっている。

コンゴ民主共和国

汎アフリカ色で構成され、中段の黄色は太陽を表し、上下の緑は豊かな農作物を、左側の赤は独立運動と平等を表現している。中央の2つの黒い星は、サントメ島とプリンシペ島の象徴である。独立闘争時のサントメ・プリンシペ解放運動の党旗がもとになってできた。

サントメ・プリンシペ民主共和国

地色の緑は農業と天然資源を表し、赤の縦ラインは自由を勝ち取るための闘争を、黒は国民を、オレンジ色は銅などの豊かな鉱物資源を表している。右上の羽を広げたワシは自由と困難に負けずに前進する力を表現。1996年にワシのマークの大きさと地色の緑の色調を変えて現在の国旗になった。

ザンビア共和国

上段の緑は農業と山岳などの天然資源を表し、中段の白は平和と正義を表している。下段の青は首都フリータウンと大西洋を表し、貿易を通して世界平和を願うという意味合いも込められている。海軍旗は、旗竿に国旗を配置した白い旗。

シエラレオネ共和国

白は平和の象徴で、青は空と海を、緑は地球を、赤い星のマークは国家の独立と統一を表現している。さらに、青はソマリ系イッサ族を表し、緑はイスラム教徒であるエチオピア系のアファール族を表していて、白い三角形で2つの民族が平等に団結することを表現している。

ジブチ共和国

緑は農業と繁栄を表し、黄色は豊富な鉱物資源を、赤は解放闘争で犠牲になった国民の血を表現している。白は平和と進歩を表し、黒はジンバブエ国民を表現したもの。左側の鳥のモチーフはジンバブエの遺跡に刻まれている栄光の象徴であり、赤い星と一緒になって社会主義国との連帯を意味している。

ジンバブエ共和国

1956年～1970年まではガボンの国旗の色を反対にしたようなデザインだったが、アラブの統一を願って赤・白・黒・緑の汎アラブ色の国旗を制定した。赤は革命によって流された血を表し、白は平和と未来への光を、黒はブラックアフリカを、緑の三角形はイスラム教徒の繁栄を表現している。

スーダン共和国

第2次世界大戦のさなかに、イギリス軍に混じって戦ったスワジ人軍団の軍旗がもとになっている。中段の赤は自由のための過去の闘争を表し、青は空と平和を、黄色は豊富な鉱物資源を表現している。真ん中にはヤリ・盾・戦闘棒や、青い天人鳥の羽がついた王のしゃくなどがデザインされている。

エスワティニ王国

独立したときの旗が復活した。左側の青の三角形は本土と島々を結んでいる海を表し、緑は農業と天然資源を、白は平和を、赤は独立闘争で犠牲になった尊い血を表現している。真ん中の紋章に描かれているのは神木バンヤの木と6つの地域を表現した星などである。

赤道ギニア共和国

左下から放射状に5色が配置されていて、上から順に青は空と海を表し、黄色は太陽を、赤は労働と国民を、白は正義と調和を、緑は国土を表現している。独立してから3番目になるこの国旗は、政党が調和するために全政党の旗色を組み合わせた。

セーシェル共和国

左から緑・黄・赤の縦3分割のデザインで、真ん中には自由のシンボルの緑の星がつけられている。この3色は汎アフリカ色。1959年にマリと連邦をつくって翌年にマリ連邦として独立を果たしたが、2ヶ月後に連邦から離脱した。マリ連邦当時の旗には中央に黒い人の像が配されていた。

セネガル共和国

地色は水色で中央に白星が描かれる。五芒星は5つのソマリ族の居住地区があることを指していて、国土と民族の統一を表現。独立時の国連の努力をたたえる意味で、国連旗の青色を採用した。

ソマリア連邦共和国

タンガニーカとザンジバル両国が合併したので、2つの国の国旗を組み合わせて作った。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青はインド洋を、2本の黄色のラインは豊かな鉱物資源を表現している。

タンザニア連合共和国

旧宗主国だったフランス国旗の図柄に影響を受けていて、真ん中の部分を汎アフリカ色の黄色に変更してできた。黄色は太陽と鉱物資源と北部地方を表し、青は空と希望と南部地方を、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。

チャド共和国

フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の緑・黄・赤を組み合わせて5色で構成され、中央の縦ラインの赤は、両者が持っている赤い血と情熱のシンボルである。緑は農業と森林部の住民を表し、黄色は地下資源とサバンナ地帯の住民を表現している。

中央アフリカ共和国

歴史的に関わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていたが、1999年に月と星の大きさを変えた。三日月はフェニキア人の美の女神タニスのシンボルである。

チュニジア共和国

赤は独立闘争で流された尊い血を表し、緑は国民と希望を、黄色は労働を、白は純潔を表現している。緑と黄色の5本の横ラインでこの国の5つの地方を表している。独立前は左上にフランス国旗を配置して、旗面に星を2つ配した緑の旗だった。

トーゴ共和国

1958年のコンテストで3000にのぼる候補の中からロンドン留学中の学生が考案したデザインが選ばれ、それをもとにして作られた。緑は豊かな森林資源と農地を表し、白は平和と統一のシンボルである。政府旗は国章ありも許容。

ナイジェリア連邦共和国

独立時にコンテストを行い1000ほどの図案が集まった。青は希望と大西洋を表し、赤は新国家建設の決意表明と独立闘争で流された血を、緑は農業と豊かな国土を表現。白線は平和と統一と繁栄を意味し、太陽は生命と活力を、12の太陽光線はこの国の主な種族の協調と統一のシンボルである。

ナミビア共和国

上段のオレンジ色は北部のサハラ砂漠を表し、中段の白は平和と純潔と潔白を、下段の緑はニジェール川沿いの豊かな農業地帯を表現。真ん中の円は太陽を表し、この国が熱帯地方であることの象徴である。

ニジェール共和国

以前オートボルタとして独立を果たすが、1983年に革命が起こって国名と国旗を変更した。赤は革命闘争と流された尊い血を表し、緑は農業・林業と富と希望を表現。黄色の星は鉱物資源を表すと同時に、革命の原理と指導性の象徴である。

ブルキナファソ

王国時代には真ん中の円の中にモロコシと太鼓がついていたが、革命後には国内のフツ族・トワ族・ツチ族の3部族を表現する星のマークに変更された。赤は独立闘争を表し、緑は未来への希望と発展を、白い円は平和を表現している。

ブルンジ共和国

社会主義政権が崩壊したときに独立時の緑・黄・赤の汎アフリカ色の旗を復活させた。緑は南部の森林やヤシ林を表し、黄色は北部のサバンナ地帯を、赤は両地域の融合と発展および祖国防衛のために流された血を表現。

ベナン共和国

雨が少なくて水資源が貴重なこの国の人たちにとって、青は恵みの雨のシンボルである。黒と白の横縞は、黒人と白人が協力して平等な社会を作るという決意が込められている。同様の理由からシマウマはボツワナの動物に指定されている。

ボツワナ共和国

紋章つきの国旗以外では、世界で一番多くの色を採用。横のY字形は、国内のさまざまな人種が統一されて前進することを意味する。かつての旗は、オランダ旗国旗の中にイギリスなどの3つの国旗を並べたものだった。

南アフリカ共和国

以前のメリナ王朝時代（マレー系民族）から親しまれてきた赤と白をもとにして、独立時に東部海岸地方のベツィミサラカ人を表す緑色が加えられてできた。赤は愛国と主権を表し、白は純粋さと自由を、緑は進歩と希望を表現している。

マダガスカル共和国

アフリカ諸国でよく見かける独立運動を推したマラウィ会議党の党旗から3色を採用した。黒は国民を表し、赤は独立運動で流された尊い血を、緑はマラウィの自然を表現している。

マラウィ共和国

旧宗主国であったフランス国旗をもとに汎アフリカ色を採用してできた旗。緑は農業と自然を表し、黄色は金などの鉱物資源を、赤は独立のために流された尊い血と勇気を表現している。

マリ共和国

2011年7月に独立して国連加盟国になった。黒はブラックアフリカを表し、白は独立闘争で手にした自由と平和を、赤は革命のために流された血を、緑は豊かな国土を表現。青い3角形はナイル川を表し、黄色のベツレヘムの星は国民の団結の象徴である。

南スーダン共和国

かつてのモザンビーク解放戦線旗に国章の一部を配した図案。赤は植民地解放闘争を表し、緑は農業を、黒はアフリカ大陸を、黄色は鉱物資源を表現。白のラインは平和と正義のシンボルとなっている。

モザンビーク共和国

独立以降国旗の変更はない。上段から順に赤は独立のために流された血を表し、青はインド洋を、黄色は太陽の光と自由を、緑は農業を表現している。独立以前はイギリス国旗を旗竿の上部に配して、旗面に紋章をつけたデザインだった。

モーリシャス共和国

モーリタニアに限らず、国旗にはその国の文化や歴史、宗教が色濃く反映されている。地色の緑と、三日月と星はこの国がイスラム教国であることを意味する。黄色はサハラ砂漠の砂を表現。

モーリタニア・イスラム共和国

赤旗は今の王朝が300年以上使用していて、20世紀の初めにソロモンの印章というイスラム伝統の緑色で描かれた紋章を配した。市民用の海上国旗には、旗竿の上部に黄色の王冠がデザインされている。

モロッコ王国

政権交代によって王政期時代の旗を再び使用。赤はフェザン地方と剣と力を表し、黒はキレナイカ地方とイスラムの闘争を、緑はトリポリタニア地方と高潔を表現。真ん中の白い新月と5角星はイスラムの象徴である。

リビア

アメリカ合衆国で解放された黒人の奴隷が国を作ったので、星条旗の影響が大きい。11本の紅白の線は、独立宣言に署名した11人を表現している。

リベリア共和国

1999年にルワンダ政府は国旗を変更するように決めたが、2年かかってようやく制定された。青は青空と平和を表し、黄色は経済の発展と協調を、緑は農業と繁栄を、右上の金色の太陽は未来への希望と統一と無知との戦いを表現している。

ルワンダ共和国

1966年以降3つめの旗で、独立したときのレント帽のデザインを復活させた。青は空と雨を表し、白は平和を、緑は豊かな国土と繁栄を、黒はアフリカ大陸を表現している。3色の構成は、3：4：3で真ん中の白ラインが幅広になっている。

レソト王国